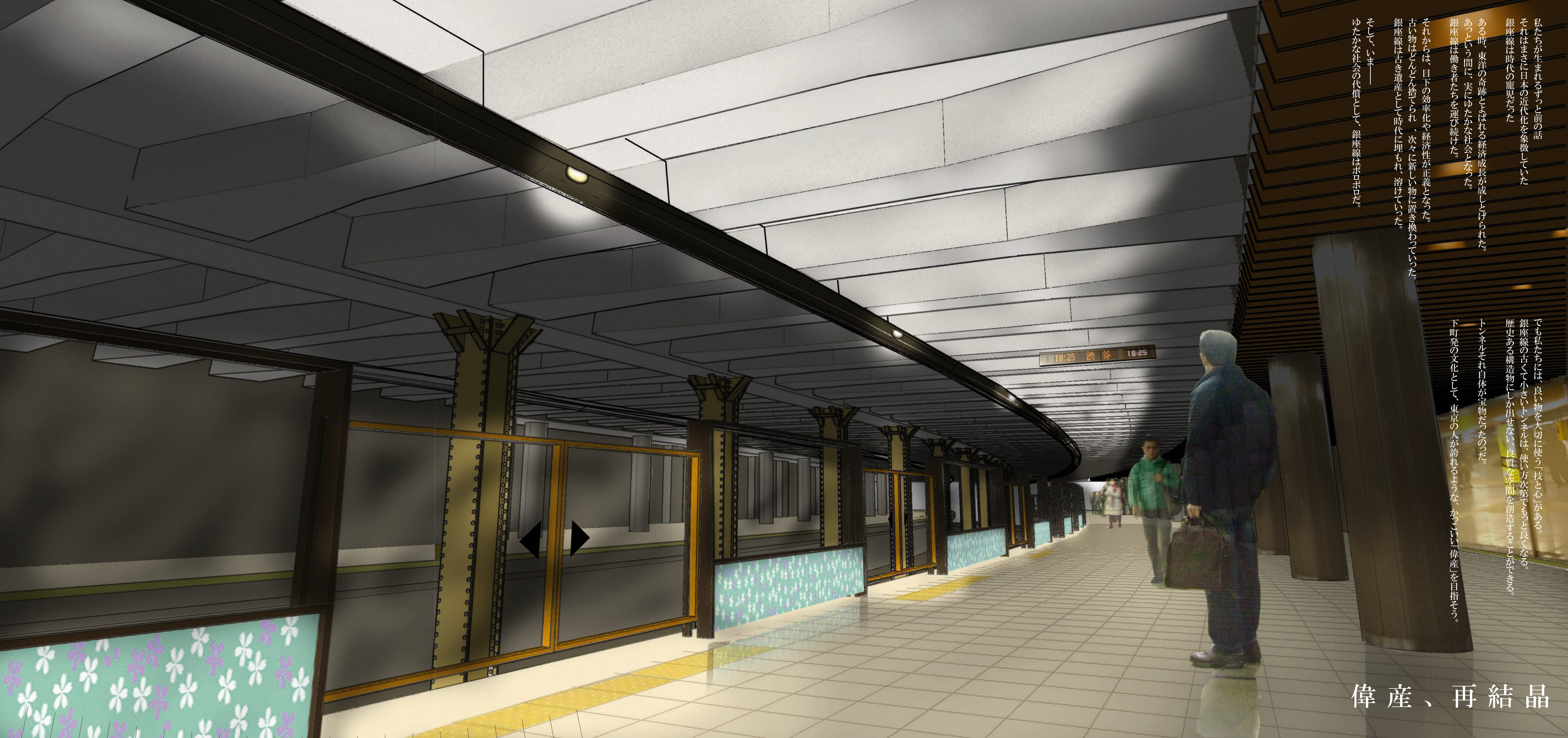
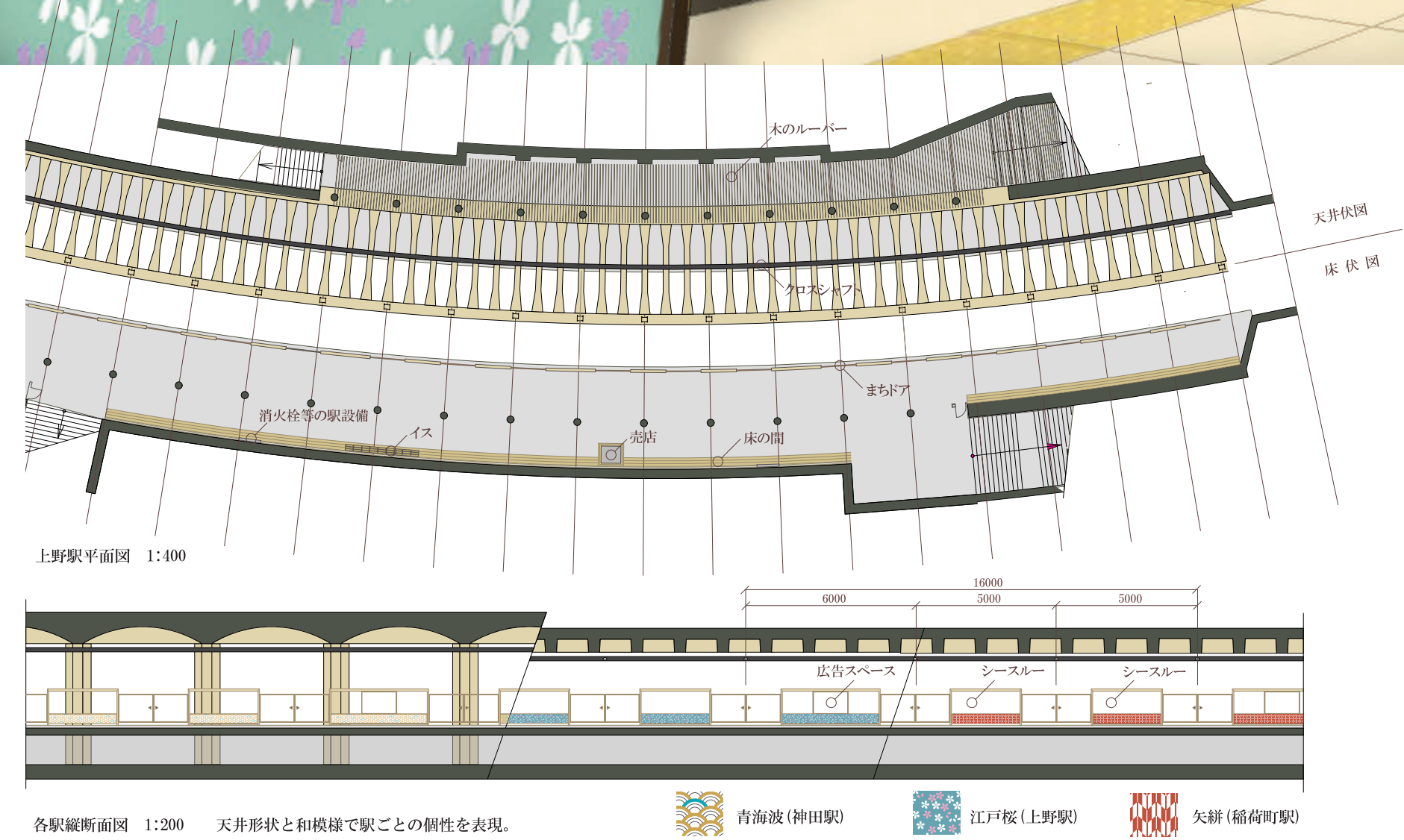




私たちが生まれるずっと前の話
それはまさに日本の近代化を象徴していた
銀座線は時代の寵児だった
ある時、東洋の奇跡とよばれる経済成長が成しとげられた。
あつという間に、実にゆたかな社会となった。
銀座線は働き者たちを運び続けた。
それから、目下の効率化や経済性が正義となった。
古い物はどんどん捨てられ、次々に新しい物に置き換わっていった。
銀座線は古き遺産として時代に埋もれ、溶けていった。
そして、いま――
ゆたかな社会の代償として、銀座線はホロボロだ。

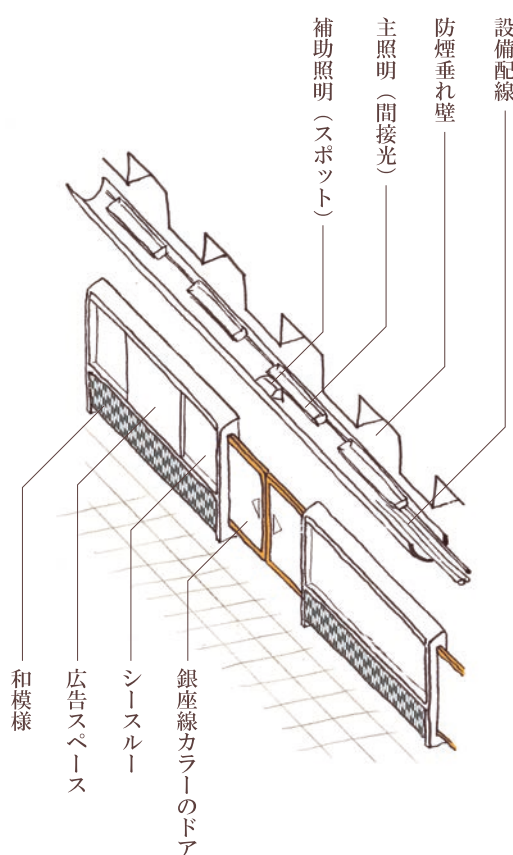
でも私たちに、良い物を大切に使う「技と心」がある。
銀座線の古くて小さいトンネルは、使い方次第でもっと良くなる。
歴史ある構造物にしか出せない、良質な空間を創造する「ことができる」。
トンネルそれ自体が宝物だったのつた。
下町発の文化として、東京の人が誇れるような、かっこいい遺産を目指そう。

偉産、再結晶



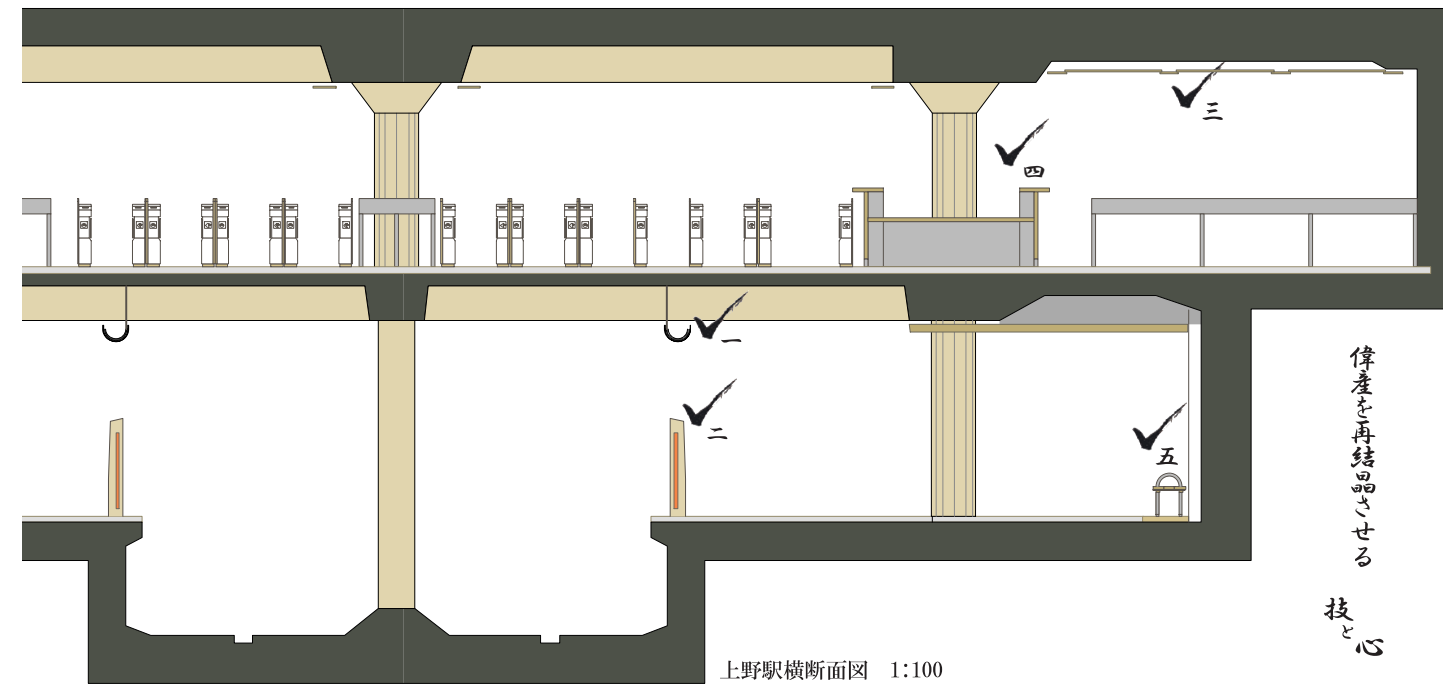
技と心

まちドア
従来の機械然とした印象を改善し、フラットホームのアクセサリとしてデザインする。
ガラスを多用してシースルーとすることで、窮屈さを最小限に抑える。駅ごとに、まち
をイメージした和模様をデザインする。まち時間のちよつとしたアクセントとなる。



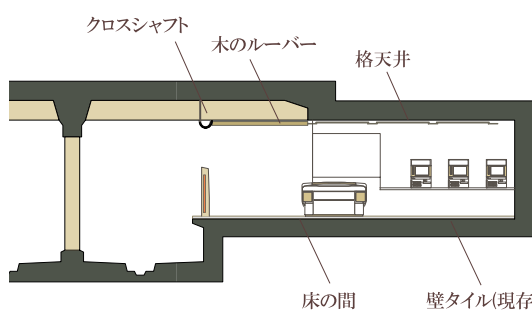
技と心

クロスシャフト
天井に格納されていた照明、通信、放送などの各種設備を収納する半円形のシャフト。
ホーム端部の上部に設置することで、防煙垂れ壁としての機能も備えている。
駅ごとにくりが違いう鉄骨鉄筋コンクリートの天井を、間接照明で上品に照らす。



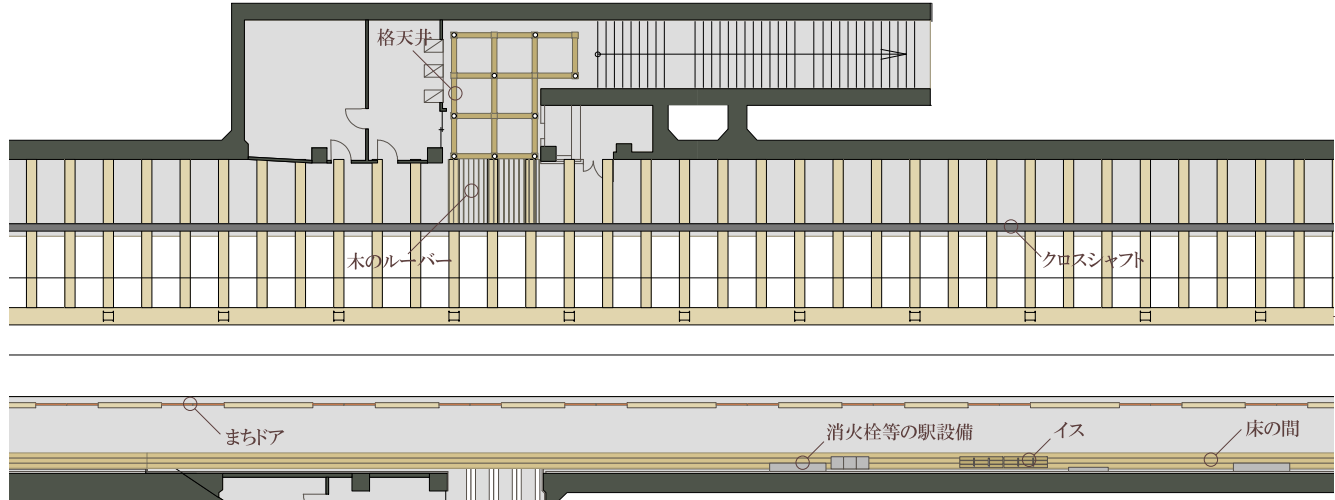
銀座線のトンネルは、低い天井を走る配管や、無造作に貼られた広告によって埋め尽くされている。たださえ狭いの、に、よけい窮屈に感じてしまう。それどころか、銀座線のトンネルを東でなく、かっこ悪いものにしてしまっている。
そこで、その窮屈でかこ悪い問題を解決し、かっこいい「偉産」として生まれ変わるために、五つの「技と心」を提案する。
「心」とはすなわち「ホスピタリティ」である。設備や広告を配置することで、精一杯だった狭いトンネルに、ゆとりを持つてお客様をおもてなしする心を表現する。
この「技と心」を条件に合わせて上手に使い分けことで、統一感のある良質な公共空間を実現する。

- 偉産を再結晶させる 技と心
- 一、クロスシャフト
 - 二、まちドア
 - 三、格天井
 - 四、木の案内所
 - 五、赤の間
 - 六、木の出入口



稲荷町駅断面図 1:200

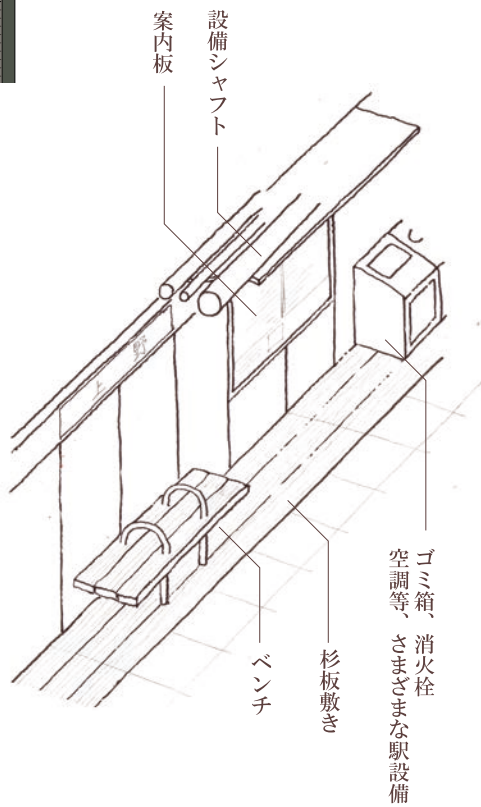
稲荷町駅は改札口とフライトホームが直結している。改札口付近の天井をルーバーとする。改札の位置を知らせると同時に、クロスシャフトからの設備の引きを可能にする。コンパクトながら広がり、統一感のある空間を実現する。



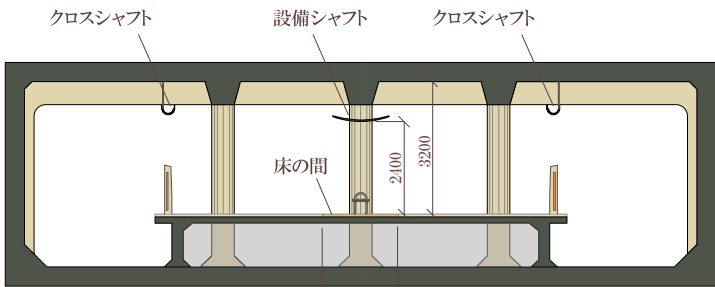
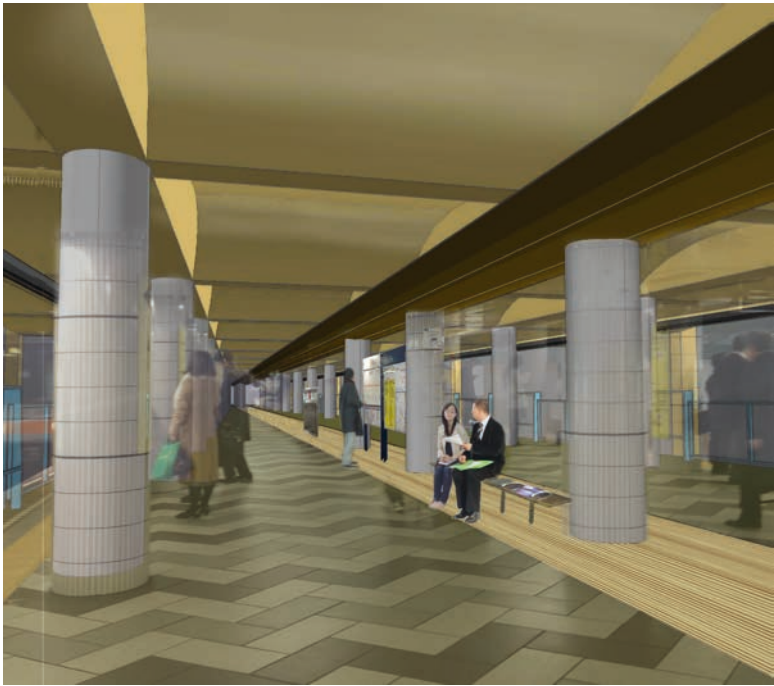
天井伏図

床伏図

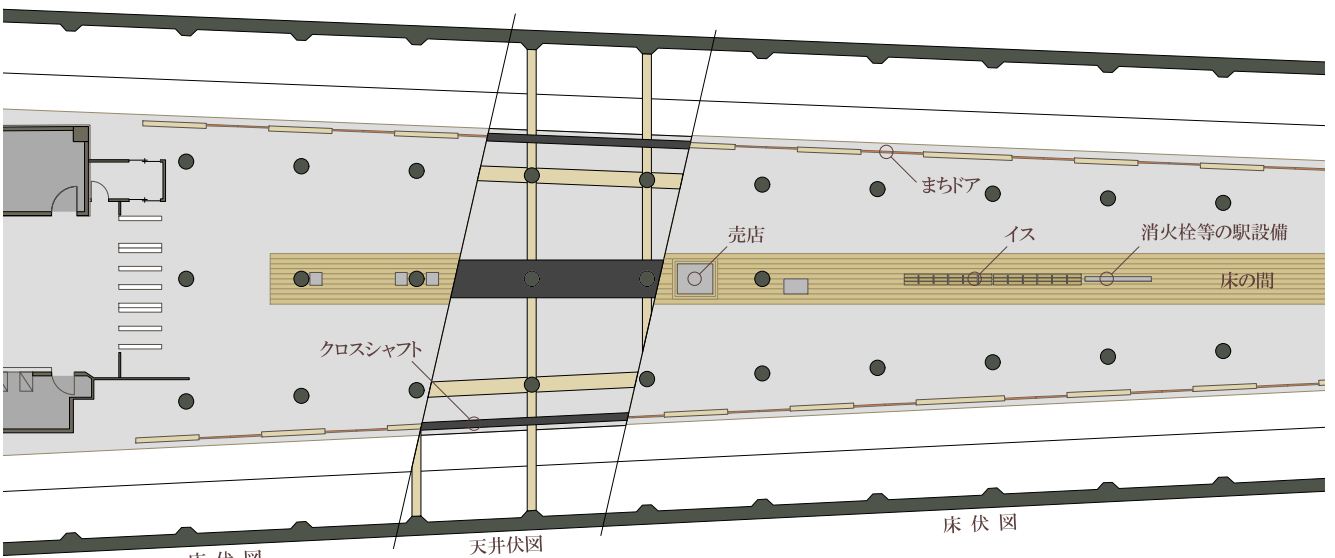
稲荷町駅平面図 1:300



本のおもてなし
床面のうち、壁面から60cmの範囲を板敷きにする。この部分は、狭い駅構内においてさまざまな駅設備が雑多に配置される箇所であり、時代の要請にあわせて設備が追加される箇所である。線路方向に一定範囲を板敷きとすることで、雑多な印象を和らげると同時に空間にぬくもりを与える。



神田駅断面図 1:200



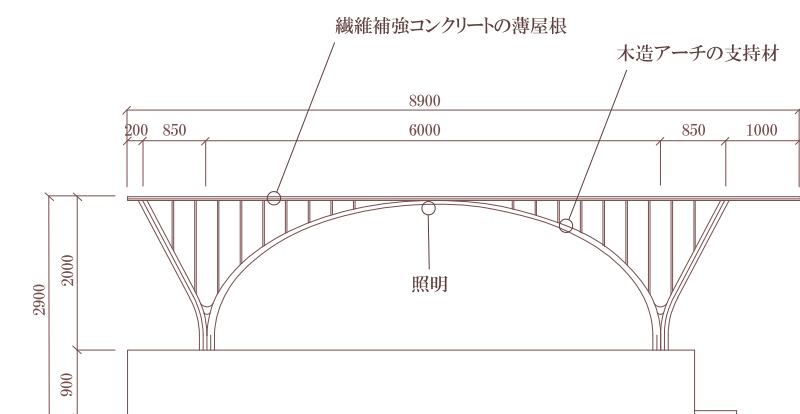
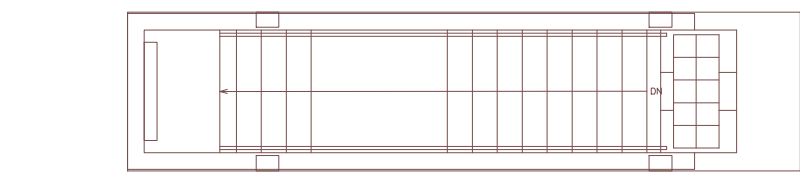
神田駅平面図 1:300



屋根に乗せるサイン類は、出入口のシンボルサインのみとする。腰壁からは、基本的に改修しない。

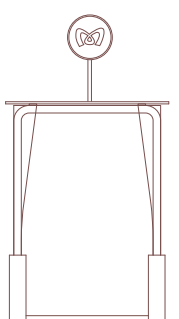


異質な風貌は遠くからでも認識でき、地下鉄のムースな利用に「役買」うだろう。

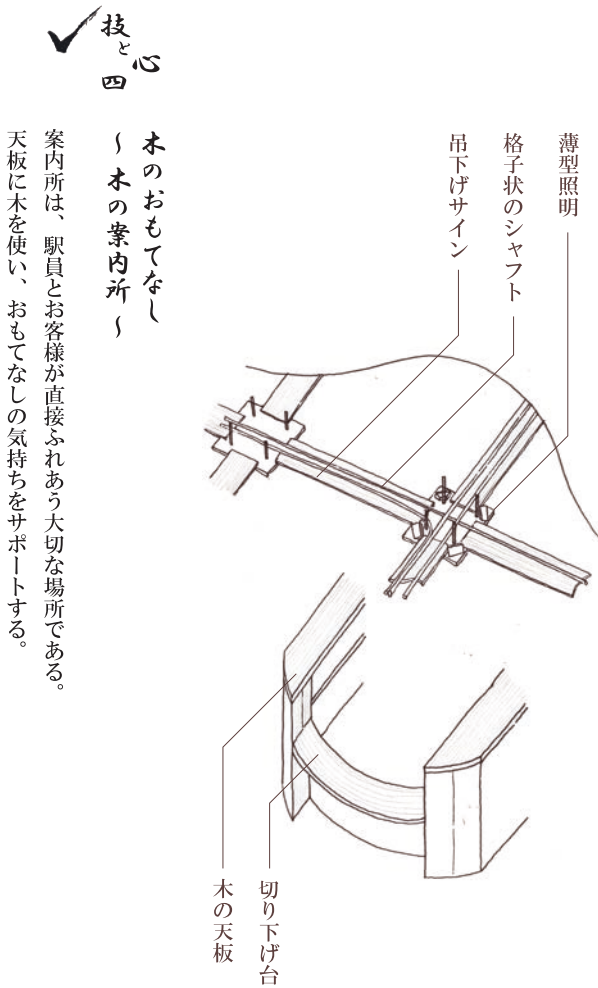


平面図・立面図・正面図 1:100

神田は、神田駅ホームの天井や万世橋高架構造などにアーチ構造が見られる。それらに呼応する形として、木造アーチの上屋とした。屋根は繊維補強コンクリートを使い、薄さと耐久性を持たせている。

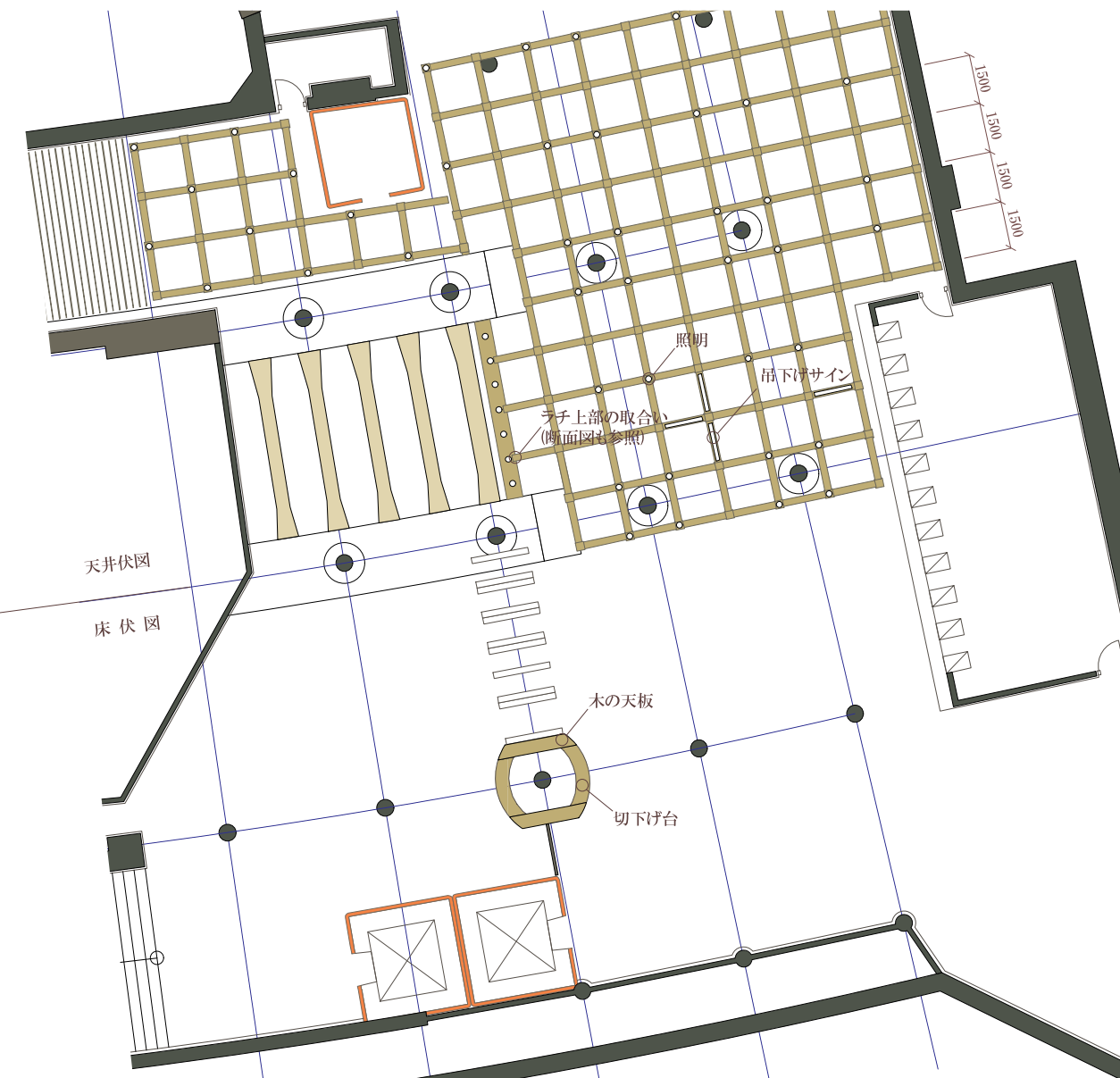


本のおもてなし
コンクリートのビルで埋め尽くされている東京の街に、あえて木という異質な物を持ち込む。新たな挑戦を都市空間に表現することで、生まれ変わった銀座線を印象付ける。



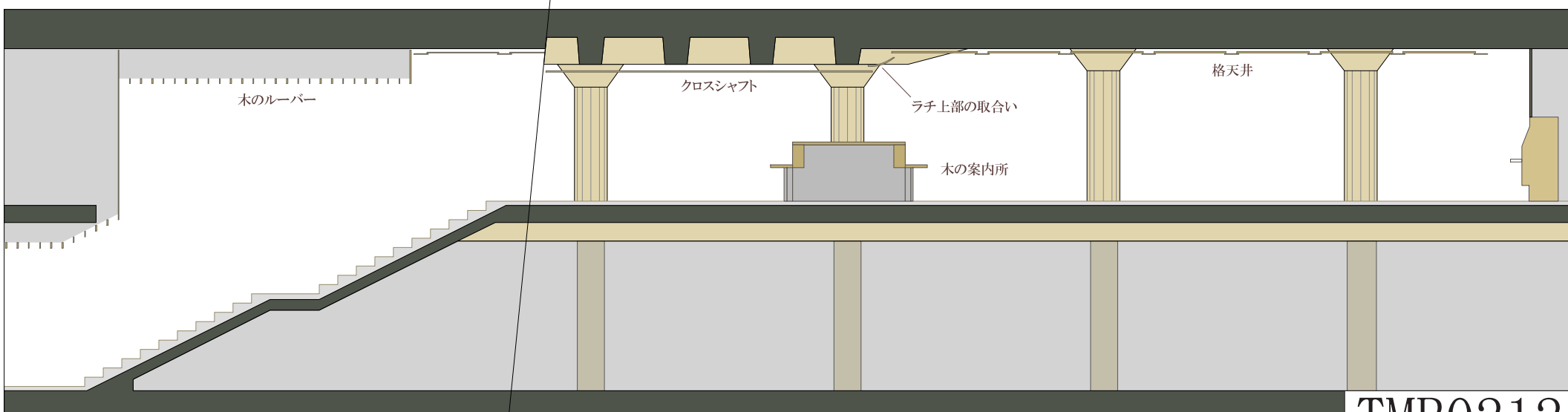
本のおもてなし
案内所は、駅員とお客様が直接ふれあう大切な場所である。天板に木を使い、おもてなしの気持ちをサポートする。

格天井
低い天井に無秩序に配置されている照明、サイン、配管類に秩序を持たせるもの。配管は格子に従って敷かれ、照明は格点に適度に配置される。懐が無い、薄型の有機EL照明を採用する。



上野駅改札階平面図 1:200

上野駅改札口では、天井の設備の改修とちよとしたサインの修正のみをおこなう。床や壁のタイル、柱の仕上げ、エレベーターシャフトには、ほほ手を付けない。良い物を大切に使うには、実は大きなお金がかかる。限られた予算でこの提案を実現するためには、思い切った投資の選択が必要だ。天井の改修に集中的に投資すること、効果的に空間に統一感を持たせることが出来る。こうした、変える必要のないところはあえて残すという考え方は、これからの時代の主流になる。銀座線は、もともと古い地下鉄として、その考え方を未来に示す。それが、「再結晶の意味」にめた本質だ。



上野駅縦断面図 1:100

ホーム連絡階段部分

中央部分

※横断面図は1枚目を参照